

### 第3学年〇組 算数科学習指導案

1 単 元 何倍になるのかな

2 指導計画 (2時間完了)

- (1) □のa倍のb倍……………1時間
- (2) □×a×bの計算……………1時間 (本時)

3 本時の指導

- (1) 目 標 (倍関係を整理した図に基づき、筋道を立てて考えることができる。)
  - 本時の課題を「もとにする量のa倍のb倍」と言葉で認識し、「(もとにする量のa倍)のb倍」「もとにする量の(a倍のb倍)」の2種類の組み合わせを予測し、伝え合うことができる。
  - 小：中＝1：3，中：大＝1：2という倍関係をつなぎ合わせて、小：中：大の比を1：3：6と結論付けることができる。

(2) 情報活用能力の育成について

**問題文を読み、問題を解くための情報を組み合わせたり、情報を整理して図示したりして、解法を筋道たてて考えることができる。**(情報活用の実践力)

(3) 準 備 教師…コンピュータ, 教材提示装置, プロジェクタ 児童…数図ブロック

(4) 指導過程 (斜体・太字…情報活用能力の育成にかかわる部分)

時間配分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点 と 方 法
8分	1 問題を読んで題意をつかむ。 (1) ブロックをケーキとしてそれぞれの箱に入るケーキの数をブロックで表す。 (2) ブロックが並んでいる様子を見てそれぞれの倍関係を知る。	○ ブロックを配り、ノートの上に並べさせる。 ・ 小は□□ ・ 中は□□□□□□ ・ 大は□□□□□□□□□□□□ ○ ブロックが並んでいる様子のプレゼンテーションをプロジェクタで表し、中は小の何倍、大は中の何倍かを考えさせる。	
22分	2 いろいろな考え方で問題を解く。 (1) 題意にそって、順に計算する方法で問題を解く。  (2) 大が小の何倍になるかを先に計算して問題を解く。	・ 中は小の三倍 ・ 大は中の二倍 ★ <b>まず、中の箱の中にケーキがいくつはいるかをもとめてから、大の箱の中にくつつ入るかを図で表して計算する。</b> 3倍      2倍 □小 → □中 → □大 2個 ・ 中には2×3＝6 6個 ・ 大には6×2＝12 12個 ★ <b>大の箱は小の箱の何倍かを求めてから、大の箱にケーキがいくつつ入るかを図で表して計算する。</b> 3倍      2倍 □小 → □中 → □大 2個                      □個 ↳ (3×2)倍↑ ・ 中は小の3倍、大はその2倍なので 3×2＝6 6倍 ・ 大は小の6倍なので 2×6＝12 12個	○ 2通りの方法について、必要な情報を読み取り、図示できているか記述からつかむ。
15分	3 2通りの考え方について話し合う。	○ 書いた図と結びつけて、考え方やその違いを記述させる。 ○ 3倍の2倍が(3×2)倍になることを図から理解させる。	○ a倍のb倍を(a×b)倍と考えることができるかどうか児童の発言の様子からつかむ。